

I (1) 機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥ 国際戦略の推進



期間実績評価

③ 科学技術外交・保健外交上の貢献

③-1 e-ASIA、SATREPS、日米医学共同事業等の成果を通じた科学技術外交

- ASEAN及び環太平洋諸国の研究資金配分機関と共催でアジア・環太平洋ワークショップを開催。12カ国から計50名を超える感染症・がん研究者が参加し、研究情報等の共有とe-ASIA事業、日米医学共同事業等を活用した共同研究プロジェクトによる課題解決を促進。
- 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業では、平成27年度以降、36か国111課題で国際共同研究・国際交流を推進、地球規模保健課題解決推進のための研究事業では20課題を推進、地球規模の保健課題についての現状及び我が国の保健外交政策に則り、研究開発上の成果に加え、
- 令和2年2月開催のEID国際会議では、COVID19に関する緊急セッションを設定し、各国のCOVID19の感染動向や、今後、重要となる研究内容等を参加者と共有できた。



ASEAN及び環太平洋諸国との連携
(面での国際連携)

ケニアにおける黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築

【事例】リフトバレー熱 (RVF) のIgM検出用イムノクロマト(POC)テストの生産技術をケニア中央研究所製造部門に技術移転が完了し現地生産を可能とした。携帯電話のSMS機能を用いたアウトブレイク情報の通信プログラム (mSOS) を開発し、有効性を実証。ケニア政府の疾病サーベイランス対策システムと統合



フィリピンでの重症肺炎治療薬の開発

【事例】ベトナムとフィリピンとの共同研究成果に基づき、1歳-15歳の重症肺炎小児患者を対象とした適応外使用探索的臨床試験をフィリピンFDAに申請し、日本主導によりフィリピンで実施した。



さらに10年以上にわたる研究開発活動がベトナム政府から高く評価され「Medal For People's Health」を受賞。

WHOによる妊婦健診等に関する母子保健分野のガイドライン策定に貢献

【事例】診療記録を妊婦自身が保持することの効果、妊娠中の各栄養素やたんぱく質に関する栄養介入効果、妊娠中における重症感染症の予防・治療効果に関して、系統的レビューを行った。その成果が妊婦健診や妊娠中の重症感染症予防・治療に関するWHOの母子保健ガイドラインに反映された。



③-2 顧みられない熱帯病 (NTDs) の研究事業の創設等

- 首脳宣言に基づいた取り組みとして、医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業において、アフリカにおける顧みられない熱帯病 (NTDs) 対策のための国際共同研究プログラム (ICREP-NTDs) を平成27年度第1回調整費を活用して新たに立ち上げた。NTDsを対象にアフリカでの研究を推進しつつ、TICAD会議等の機会を利用して5年間で7回のシンポジウム等を開催し成果を共有した。



H27 国際シンポジウム (ケニア)



H28 TICAD 6 プレイベント (東京)



H28 TICAD 6 サイドイベント (ケニア)



H28 TICAD 6 ポストイベント (ケニア)



H29 国際シンポジウム (ザンビア)



H30 国際シンポジウム (ガーナ)

新規事業を立ち上げ、アフリカでの感染症プロジェクトの推進と成果の共有 (面での国際連携)

- 医薬品 ワクチン
 - Malaria Vaccine BK-SE36 (SATREPS→GHIT→CICLE)
 - MucoRice Vaccine (SATREPS→CICLE)
- サーベイランス
 - Surveillance System for Viral Diseases (SATREPS)
 - Infectious Disease Transmission Models and Climate Prediction Models (SATREPS)
 - International Health Regulation (IHR) (地球規模保健)
- 診断薬
 - Dengue (NTDs)
 - Tuberculosis (NTDs)
 - Trypanosomiasis (NTDs)
 - Yellow Fever (NTDs)
 - Rift Valley Fever (NTDs)
 - Ebola (SATREPS)
 - Viral zoonoses (SATREPS)
 - Human African trypanosomiasis (NTDs)
 - Leprosy (NTDs)
 - Buruli ulcer (NTDs)
 - Multi-diagnostics (NTDs)

I (1) 機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥ 国際戦略の推進



期間実績評価

④ 国際的に活用が期待される若手研究者の育成

④-1 Interstellar initiative 事業を創設し革新的シーズ創出を促進

- 世界中から若手研究者を公募し、日本人をリーダーとする国際的・学際的チームを構成。各チームはメンターの指導のもと、医療分野の難課題解決に向けた研究計画を立案し、国際グラントの獲得を経て国際共同研究を実施。これにより、日本の医療分野国際研究力の強化に加え、医療ニーズに応える革新的新規シーズの創出等を通して世界に貢献。平成元年度は事業を通じて、全米科学アカデミー（NAM）のHealthy Longevity Global Grand Challenge事業への登録課題を選定した。
- これまでの開催（試行開催を含む）で41チームが生まれ、各チームは立案した研究計画をHuman Frontier Science Programや全米医学アカデミー（NAM）のHealthy Longevity Global Grand Challenge 等をはじめとする挑戦的な研究グラントへ応募。
- Interstellar Initiativeの開催にあたり、若手研究者の周知やメンターの紹介のため、米NIHやNSF、英MRC、星A*STAR、豪NHMRC、独DFGなど、カウンターパートである海外FAと連携。

◆平成30年度公募実績

応募数	書類審査数	採択数	採択率
98	68	30	44.1%

◆令和元年度公募実績

応募数	書類審査数	採択数	採択率
94	64	30	46.9%

◆平成30年度に採択された30名の国別内訳

日本	米国	ドイツ	シンガポール	英国	カナダ
12	4	4	4	3	3

◆令和元年度に採択された31名の国別内訳

日本	米国	シンガポール	カナダ	イスラエル	イタリア	ナイジェリア	ポルトガル
10	11	3	2	2	1	1	1

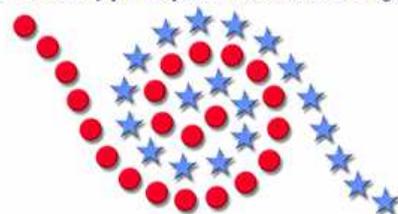
令和元年度評価④-1

④-2 地球規模の保健課題への対応や若手・女性研究者の育成に向けた取組

米国NIAIDと4回の若手・女性公募を実施

- 平成27年度に実施した日米医学協力計画50周年記念行事のフォローアップとして、若手・女性育成のための公募を開始した。これまで米国NIAIDと4回の公募を実施、22件を採択し、若手・女性研究者の育成に貢献した。

United States-Japan Cooperative Medical Science Program



④-3 既存プログラムでの若手研究者を対象とした公募を実施

若手研究者を対象とした海外FA等との共同公募

- SICORPでは、細胞治療分野（シンガポール）でのA*STARとの共同公募、感染症（英国）でのMRCとの共同公募において、若手研究者を対象にして共同研究公募を行い、若手研究者の発掘を推進した。



Agency for Science, Technology and Research

MRC Medical Research Council

I (1) 機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥ 国際戦略の推進

評価軸

我が国にとって真に価値のある国際共同研究を推進したか。

令和元年度評価

国際的研究ネットワーク及び国際的な研究環境を構築し、若手研究者等の国際共同研究を加速

- 新たに5件のMOC署名に向けたワークショップ(4件)・ラウンドテーブル(1件)を開催した(①-1)。また、事業課主体・プログラム主体のワークショップを10件開催した。
- 「医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業」において、シンガポールA*STARと細胞治療分野で3件、英国MRCと感染症分野で8件の共同研究を開始した(②-1)。これらの公募において、若手研究者を対象にして共同研究公募を行い、若手研究者の発掘を推進した(④-3)。
- さらに同事業Interstellar Initiativeにおいて、健康長寿を主要分野に国際公募を実施し、世界中から優秀な若手独立研究者(PI)31名を採択。医療分野の新規シーズの創出(研究計画の立案)を推進した。また、NAMのHealthy Longevity Global Grand Challenge事業への登録課題を選定した。(④-1)。
- 平成27年度に実施した日米医学協力計画50周年記念行事のフォローアップとして、若手・女性育成のための公募を開始し、若手・女性研究者の育成に貢献した。(④-2)。
- ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)では、30周年を記念しHFSP機構、文科省・経産省・AMEDの共催により式典と記念講演会を東京で行った。各国のFA、HFSP採択者や国内の高校生を招待し、ノーベル賞受賞者4名による講演が行われ、国際連携推進に寄与した。また、在米日本大使公邸でもNIH、NSF両長官、末松理事長、米国大使ほかの出席のもと、30周年記念式典が行われ、参加した(②-2)。

モニタリング指標	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
相手国への派遣研究者数*	515件	514件	451件	340件	264件
相手国からの受入研究者数*	148件	165件	201件	190件	232件
参加している国際コンソーシアムの数	5件	7件	8件	11件	11件
開催した国際ワークショップの数*	8件	11件	19件	20件	14件

*Interstellar Initiativeで実施したWS参加者を含む

- 新型コロナウイルス(COVID-19)の流行に対処するため、令和2年1月31日、COVID-19に関連する研究成果とデータを広く迅速に共有する声明に署名した。これにより、感染症の流行に対処するために研究データや結果を共有することが可能となった。

期間実績評価

国際レビューの導入や連携相手国機関との協力を通じて、質の高い評価及び国際共同研究を推進

- SICORP等を活用した我が国にとって真に価値のある研究分野・課題の推進。シンガポール、スペイン、英国など11カ国と各国の強みを活用した51件の国際共同研究を着実に実施した(②-1)。
- 主要研究支援機関間の情報共有、難病、感染症などの研究開発に関わる重要な国際研究アライアンス11件に加入し、積極的な活動を展開した(②-2)。
- グローバルなデータシェアリングや、難病・未診断疾患、感染症、再生医療、Healthy Agingなどの重要な研究分野について、国際的研究ネットワーク及び研究環境を元に国際共同研究を推進した結果、未診断疾患患者の確定診断、低コスト診断薬の開発などの成果を得た。
- 慢性疾患国際アライアンス(GACD)の国際協調公募では、実装研究に関するワークショップを開催した(②-2)。
- 平成30年度にはInterstellar Initiativeを立ち上げ、日本人の若手独立研究者をリーダーとした国際的・学際的研究チームによる医療分野での先進的な研究シーズの創出を推進した。また、ニューヨーク科学アカデミー(NYAS)と連携し、国内外のノーベル賞級の研究者をメンターとする若手育成国際ワークショップを開催するなどの取組を行い、質の高い国際共同研究を推進した(④-1)。
- 国際水準での評価等を目指し、平成31年度公募において13事業に導入し、公募・評価プロセスにおける国際レビューの導入を拡大した。また、AMEDオンライン課題評価システム(ARS)に英語での使用が可能となり、評価システムの改善が行われた。(①-2)。

I (1) 機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥ 国際戦略の推進



評価軸

我が国の医療に係る研究能力を活用して国際的にも貢献したか。

令和元年度評価

科学技術外交・保健外交上の貢献

- 「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」では、政府開発援助 (ODA) との連携によりアジア等の開発途上国と感染症分野等の地球規模課題の解決につながる医療分野の国際共同研究を実施。継続課題9件の共同研究を着実に推進するとともに、新規課題2件について研究開発を開始した(③-1)。
- 東アジア諸国との共同研究については、同事業「e-ASIA共同研究プログラム」において、アジア・大洋州等の15か国による国際共同研究プログラムに参画して感染症領域(6件)及びがん領域(2件)の国際共同研究を着実に推進するとともに、感染症領域の新規課題3件を採択し、研究開発を開始した(③-1)。
- 地球規模保健に関する研究課題を国際機関と連携しながら、我が国の知見や経験を基盤に各国との共同研究を着実に推進した。ガーナにおける国境検疫(水際対策)に関する研究課題では、ガーナの国家感染症対策に貢献した(③-2)。
- 省庁間合意に基づく欧米等先進諸国との国際共同研究等については、戦略的国際共同研究プログラム (SICORP) において、国が戦略的に重要なものとして設定した相手国との国際共同研究を着実に推進した。具体的には、シンガポールとはエイジング分野、スペインとはナノメディシン分野の共同研究を引き続き推進するとともに、シンガポールA*STARと細胞治療分野で3件、英国MRCと感染症分野で8件の共同研究を開始した(②-1)。

期間実績評価

科学技術外交・保健外交上の貢献

- 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業では、36か国111課題で国際共同研究・国際交流を推進し、研究開発上の成果に加え、相手国への研究成果の実装や現地での臨床試験の開始、相手国政府からの表彰など計画を上回る顕著な成果が得られた。(③-1)。
- 首脳宣言に基づいた取り組みとして、アフリカにおける顧みられない熱帯病 (NTDs) 対策のための国際共同研究プログラム (ICREP-NTDs) を平成27年度第1回調整費を活用して新たに立ち上げ、NTDs制圧に向けた研究開発の推進及び国際貢献により、医療分野研究の我が国の国際プレゼンスを向上し、科学技術外交を強化した(③-2)。
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の視点を踏まえ、地球規模の保健課題(感染症対策、母子保健、新型インフルエンザ等への緊急対策、高齢化、生活習慣病など)に関して、疾病の原因究明、予防法の検討、疾病の治療法や診断法の標準化等に関する研究を推進するため、地球規模保健課題解決推進のための研究事業では22件の課題を着実に実施した(③-1)。また、慢性疾患国際アライアンス (GACD) と協力し、国際協調公募を実施するとともに、Implementation Research (実装研究) を推進するためのワークショップを開催した(②-2)。
- 日米医学協力計画においては、AIDS等ウイルス分野、コレラ等寄生虫・細菌分野、栄養・代謝、がんの9分野において、アジア地域に蔓延する疾病に関する研究内容を米国国立アレルギー・感染症研究所 (NIH/NIAID) と共有して実施した。NIAIDとは毎年汎太平洋新興・再興感染症国際会議 (EID国際会議) を共同で開催し、日米の研究成果を共有した。さらに、平成27年度に実施した日米医学協力計画50周年記念行事のフォローアップとして、若手・女性育成のための公募を開始し、若手・女性研究者の育成に貢献した(④-2)。

I (1)機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥国際戦略の推進



評価軸

グローバルなデータシェアリングへの戦略的な対応を行っているか。

令和元年度評価

リトアニア保健省とのワークショップ開催

- ▶ 平成28年度にMOCに署名したリトアニア保健省と共同でナノテク、ゲノム編集をテーマとしたワークショップを開催した。リトアニアはシンガポールと並び、電子カルテを活用した国家的な臨床治療・研究が実施可能な数少ない国であり、難病・未診断疾患、がん分野を中心とするデータシェアリングをベースにした国際連携を見据え、ゲノム編集技術開発までを網羅する、両国に有益な研究課題を明らかにした(①-2)。

期間実績評価

7つのMOC・11の国際アライアンスを通じたデータシェアリングを推進

写真提供※1：米国国務省、※2：共同通信社

- ▶ 国際的な研究資金配分機関の連携、データシェアリングを念頭に、7つのMOCに署名(①-2)、11の国際的アライアンスに加盟した(①-3)。
 - 国際的な枠組みを通じたグローバルなデータシェアリングが研究の加速するため、希少疾患・未診断疾患の分野では、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)の取組を通じて、リトアニア保健省や米国NIH、スペインSEIDIとのMOCに基づく共同研究やUDNI(Undiagnosed Diseases Network International)との研究上の国際協力により2件の未診断疾患の確定診断に成功した。
 - 国際希少疾患研究コンソーシアムのIRDIRCでも新10ヶ年目標の策定や加盟機関総会の招致・開催で貢献した。
 - 慢性疾患国際アライアンスであるGACDでは運営に直接関して予算運営や次期戦略計画の骨子策定に貢献するとともに、GACD加盟国と国際協調研究公募を平成28年度から実施した。
 - 感染症のアウトブレイクに対する国際連携ネットワーク(GloPID-R)では、ブラジルにおけるジカ熱流行(2016年)、コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱流行(2018年)に際して、英国Wellcome Trust 主導のもと世界の研究支援機関や学術出版社と連携して、研究成果とデータを広く迅速に共有する声明に署名した。

7件のMOCに署名



11の国際コンソーシアム加盟



I (1)機構に求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑥国際戦略の推進



評価軸

海外事務所を活用しつつ、共同研究の調整・推進や情報収集・発信等を行っているか。

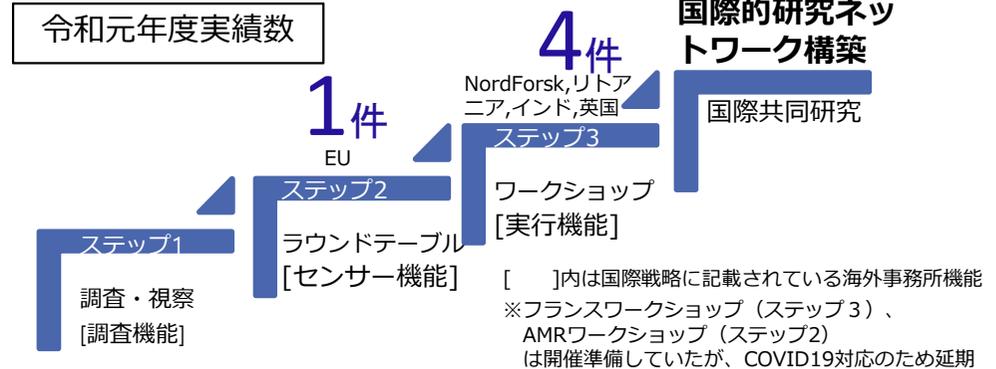
令和元年度評価

1件のラウンドテーブル、4件のワークショップ等を開催し国際的なネットワーク構築を推進

国際連携の進め方のステップの中での各事務所の貢献状況【右図】

- ステップ1：海外動向調査・視察
- ステップ2：AMED戦略・事業に資する海外先進ワークショップ
- ステップ3：AMED国際戦略を推進する縦横連携ワークショップ

→ 国際的研究ネットワーク構築を推進



期間実績評価

海外事務所と主要な研究資金配分機関 (FA) や各事業との連携による国際連携を展開

主な活動実績	領域(地域)	FA等との連携推進	調査・視察による情報収集	イベント等での情報発信
ワシントンDC事務所	全般 (北米・中南米)	<ul style="list-style-type: none"> NIH: 研究支援情報の公的データベース (World RePORT) 等での連携 NAM: Healthy Longevity Grand Challenge の共同実施 NSF: International Brain Initiativeの会合に参加 Japan Clinical Trials in Oncology WSを在米大使館と共同開催 (3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 北米・中南米の医療分野研究開発の最新動向調査 バイオテックエコシステム (ボストンのベンチャー企業育成) 視察 NIH、ガルベトン国立研究所BSL4施設視察 All of Us 研究プログラムについての調査、NIHにおけるエージング研究開発ファンディングのトレンド調査 等 	<ul style="list-style-type: none"> 桜まつりストリートフェスティバルでのNIHとの共同展示 在米日本人研究者向けに海外から応募が可能なAMED公募情報を発信 HFSP30周年記念セミナーを在米日本大使公邸にて開催
シンガポール事務所	全般 (アジア・大洋州)	<ul style="list-style-type: none"> シンガポールA*STAR: 再生医療分野WS開催 オーストラリアNHMRC、米国NIAID、ニュージーランドHRC: がん、感染症分野WSの開催 科学技術合同委員会、e-ASIA理事会等に参加 オーストラリアNHMRC、米国NIAID、タイNASDA: AMRのWS企画 (次年度に延期) 	<ul style="list-style-type: none"> アジア、大洋州の医療研究開発関連の最新動向調査 豪NHMRCやニュージーランドHRCでの公募審査会 (Peer Review Panel) 視察による評価手法の調査 マレーシア・インドネシアにおけるSDGs調査 	<ul style="list-style-type: none"> 在ベトナム日本大使館と共催でベトナム研究者向けセミナーを開催 タイ科学技術博覧会2018にAMED研究成果を出展 Gene & Cell Therapy Symposium – 遺伝子・細胞治療シンポジウムの開催を支援
ロンドン事務所	全般 (欧州・アフリカ)	<ul style="list-style-type: none"> 英MRC: 認知症、感染症、再生医療分野での連携 科学技術合同委員会、GACDボードミーティング、WS等に出席 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・アフリカの医療研究開発関連の最新動向調査 J-PRIDE事業の研究者と、日英の国際共同研究を検討するため現地研究機関の視察 EU一般データ保護規則 (GDPR) の施行に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> 「予防」に着目した地域介入等の研究を進めるための「ヘルシーエイジングに関するシンポジウム」を開催 MRC及びSPSと共同でヘルシーエイジングをテーマとしたワークショップを開催

I (1)AMEDに求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑦基金等を活用した中長期的な研究開発の促進等

令和元年度評価



評価(自己
評価)

B

①政府出資を利用した産学官共同での医薬品・医療機器の研究開発の促進等について、①-1 医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)第4回(令和元年11月採択決定)公募の採択課題を決定し、支援を開始した。①-2「総合コンサルテーションによりオールAMEDで行う伴走支援」や「各課題の状況に合わせた丁寧な課題マネジメント」により、強化された新たなPS/PO体制の下で課題を推進している。事後評価を1課題に対して実施し、目標達成と評価した。①-3 平成30年度第2次補正予算の政府出資金を活用した第5回公募を開始した。

②健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発等事業について、令和元年度補正予算において国から交付される補助金により基金を設置した。

以上より、「研究開発成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められる。

①-1

外部有識者により構成される医療研究開発革新基盤創成事業課題評価委員会を設置し、CiCLEでは多様な分野の研究開発を対象とすることから、多数の専門委員を委嘱し、それら協力の下、医療研究開発革新基盤創成事業採択・評価会による公平で厳格な事前評価を実施した。その結果、第4回公募では49件の応募から10課題を採択した。

①-2

・多様な分野・事業フェーズの課題を推進するため、PS4名とPO17名の体制からPS5名とPO21名に強化した。

・PS/POの下、AMEDのCiCLE課題担当者、AMED関連部署(感染症研究課等)、外部有識者、外部コンサルタント(薬事、知財、財務、マーケティング、等)らによるチームを形成し、総合的コンサルテーションにより、効果的かつ効率的な事業運営を伴走型で支援した。

(右上②に続く)

①-2

・令和元年度において6課題において中間評価を実施した。さらに1課題において事後評価を実施し、目標達成として終了した。

①-3

平成30年度第2次補正予算を活用して第5回公募を開始した。「スタートアップ型ViCLE」において、提案上限額を原則3億円から原則10億円、開発期間を原則3年から5年に引き上げ、ベンチャーでも規模の大きい研究開発が実施できるよう改善した。特に、新型コロナウイルス対策として、スピード感を持った研究開発を実施するため、通常スケジュールとは異なる迅速審査を設計し、関係府省庁へ提案し、通常の場合に先立ち新型コロナ案件に限る早期採択を2回行うことを含めた全3回の公募を行うこととした。

②

ムーンショット型研究開発等を推進するため、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律に基づき、国から交付される補助金により基金を設置した。

I (1)AMEDに求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑦基金等を活用した中長期的な研究開発の促進等



期間実績評価

評定
(自己
評価)

B

①政府出資を利用した産学官共同での医薬品・医療機器の研究開発の促進等について、①-1 政府出資金(28年度第2次補正予算 550億円、29年度第1次補正予算 300億円、30年度第2次補正予算 250億円)を活用して、医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)第1~5回公募を実施した。①-2「総合コンサルテーションによりオールAMEDで行う伴走支援」や「各課題の状況に合わせた丁寧な課題マネジメント」により、強化された新たなPS/PO体制の下で課題を推進している。事後評価を1課題に対して実施し、目標達成と評価した。

②健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発等事業について、令和2年度からムーンショット型研究開発の公募・採択等の本格化に向け、必要な基金を設置した。

以上より、「研究開発成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められる。

	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1	見 込	期 間
自己 評価	-	B	B	B	B	B	B
主務 大臣 評価	-	B	B	B		B	

①-1

- ・ 28年度第2次補正予算550億円を活用して、革新的な新薬・医療機器等の創出に向けて、産学官が連携して取り組む研究開発及びその環境の整備を促進するCiCLEを設計し、第1回公募と第2回公募を実施し、それぞれ7課題と10課題を採択した。
- ・ 29年度第1次補正予算300億円を活用して、第3回公募を実施した。スタートアップ型のベンチャー企業が利用しやすい「スタートアップ型(ViCLE)」も追加で設定した。一般型において10課題、ViCLEにおいて4課題採択した。
- ・ 30年度第2次補正予算250億円を活用して、第4回公募ではViCLEの委託費の下限を引き下げ、ベンチャーが申請しやすいように見直し、一般型7課題、ViCLEにおいて3課題採択した。第5回公募では、ベンチャーでも規模の大きい研究開発が実施できるよう改善し、特に、新型コロナウイルス対策として、スピード感を持った研究開発を実施するため、通常スケジュールとは異なる迅速審査を設計し、関係府省庁へ提案し、通常の場合に先立ち新型コロナ案件に限る早期採択を2回行うことを含めた全3回の公募を行うこととした。

①-2

- ・ 多様な分野・事業フェーズの課題を推進するため、PS3名とPO1名の体制から、PS5名とPO21名の体制に強化した。
- ・ PS/POの下、AMEDのCiCLE課題担当者、AMED関連部署(感染症研究課等)、外部有識者、外部コンサルタント(薬事、知財、財務、マーケティング、等)らによるチームの形成を行い、総合的コンサルテーションにより、効果的かつ効率的な事業運営を伴走型で支援した。
- ・ 平成30年度において、4課題に対して中間評価を実施した。令和元年度において、6課題に対して中間評価を行い、1課題に対して、事後評価を実施し、目標達成と評価され、成功に導いた。

②

- ・ 令和2年度に政府による研究開発目標が決定されることを踏まえ、ムーンショット型研究開発制度の円滑な運用等を図るため、基金を令和2年3月に設置した。

I (1)AMEDに求められる機能を発揮するための体制の構築等

⑦基金等を活用した中長期的な研究開発の促進等

期間実績評価



①-1 政府出資を利用した産学官共同での医薬品・医療機器の研究開発の促進等

令和元年度評価

【イノベーション創出環境整備タイプ】

【研究開発タイプ】

【実用化開発タイプ】

第1回公募結果（7課題）（H29年度実施）

採択課題名	代表機関名
特殊ペプチド原薬CMO創設	ペプチドリーム株式会社
経口コメ型バイオ医薬品のプラットフォーム化を目指した実証研究	アステラス製薬株式会社
産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出	イーザイ株式会社
進行性骨化性線維異形成症（FOP）に対する革新的治療薬の創出	第一三共株式会社
薬剤耐性（AMR）菌感染症治療薬を目的とした創薬研究	大日本住友製薬株式会社
マラリアワクチンの医薬品開発と商業製造の確立	ノーベルファーマ株式会社
新規核酸送達技術を用いたウイルス感染症遺伝子ワクチン開発	第一三共株式会社

第2回公募結果（10課題）（H29年度実施）

採択課題名	代表機関名
がん医療推進のための日本人がん患者由来PDXライブラリー整備事業	株式会社LSIメディエンス
創薬ライブラリーの共同管理・運用及び産官学連携によるその相互利用推進	株式会社CACクロア
手足口病VLPワクチンの開発	一般財団法人阪大微生物病研究会
新規の核酸合成とデリバリー技術を用いた核酸創薬研究	株式会社カン研究所
ゲノム編集により作製した疾患iPS心筋細胞を用いた肥大型心筋症治療薬の開発	武田薬品工業株式会社
オピオイドδ受容体活性化を機序とする画期的情動調節薬の開発	日本ケミファ株式会社
タンパク質構造解析のハイスループット化へ向けた装置開発	日本電子株式会社
セラノスティクス概念を具現化するための創薬拠点整備を伴う、抗体等標識治療薬（アルファ線）とコンパニオン診断薬の開発	日本メジフィジックス株式会社
サイトメガロウイルス（CMV）特異的完全ヒト型モノクローナル抗体の臨床POC確立	ノーベルファーマ株式会社
クローン病を対象とした産学連携による本邦発バイオ医薬品と新規薬効予測マーカーの開発	EAファーマ株式会社